

2026 年卒

外国人留学生の就職活動に関する調査

2025 年 8 月発行

加速する日本企業のグローバル化への対応や訪日外国人対応のため、また、深刻な人材不足を補うため、外国人留学生の採用ニーズはますます高まっている。

「キャリアス就活」および「CFN (www.careerforum.net)」に会員登録している 2026 年卒業予定の外国人留学生を対象に、職業観や就職活動状況などを調査した。比較可能なものに関しては、国内学生（日本人学生）や海外の大学で学ぶ日本人留学生の調査データを引用しながら分析する。

【主な調査内容】

1. 現在の日本語力	・・・ P 2
2. 就職したい企業の種類	・・・ P 3
3. 日本での就職を希望する理由と不安に感じる点	・・・ P 3
4. 日本企業に対するイメージ	・・・ P 4
5. 就職したい企業の規模と志望業界、志望職種	・・・ P 5
6. 就職先企業を選ぶ際に重視する点と希望する働き方	・・・ P 6
7. インターンシップ等（※）のプログラム参加状況	・・・ P 8
8. 就職活動開始時期	・・・ P 8
9. 7 月時点の就職活動量と内定状況（※）	・・・ P 9
10. 企業に評価してもらいたいこと	・・・ P 10
11. 就職活動の情報源	・・・ P 10
12. 企業研究で把握しやすかった情報／もっと発信してほしい情報	・・・ P 11
13. 留学の満足度	・・・ P 12
14. 外国人留学生就活川柳	・・・ P 12

※「インターンシップ」に限定せず、1 日以内のプログラムも含めて調査

※「内定」には、内々定を含む

《調査概要》

調査対象：2026 年 3 月卒業予定の外国人留学生（現在、大学 4 年生・大学院修士課程 2 年生）
 調査方法：インターネット調査法
 調査期間：2025 年 6 月 27 日～7 月 27 日
 サンプルング：キャリアス就活または CFN に会員登録している 2026 年卒業予定の外国人留学生
 有効回答数：283 人

回答者の属性

単位：人

文系	196	大学院	178	国公立	104
理系	87	学部	105	私立	179

●出身国・地域

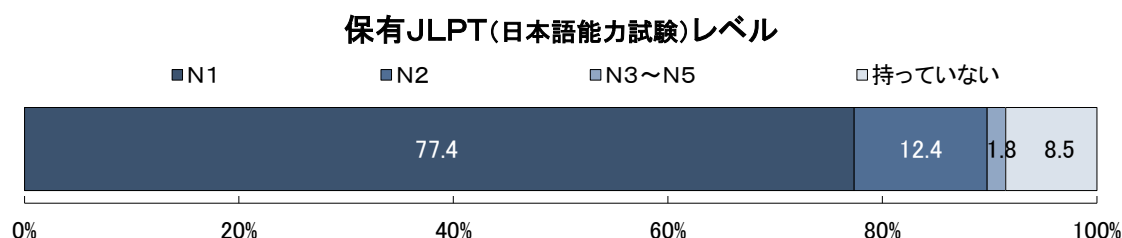
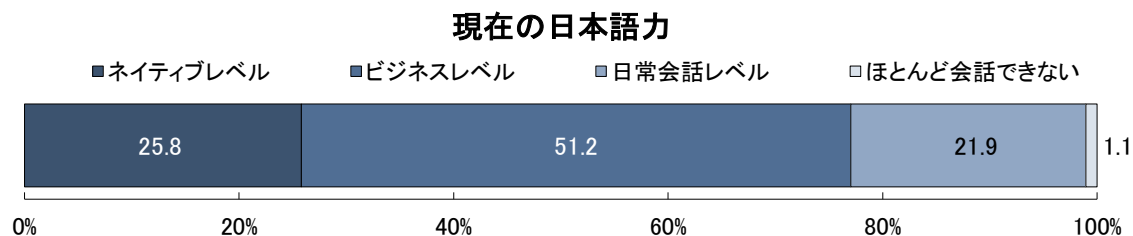
東アジア	東南アジア	その他アジア	北米	ヨーロッパ	オセアニア	ロシア	南米	中東	アフリカ
247	18	5	2	2	1	2	2	3	1

※国内学生の調査結果は「キャリアス就活 学生モニター調査」（2024 年 11 月、2025 年 1 月、2 月、3 月、7 月調査）より

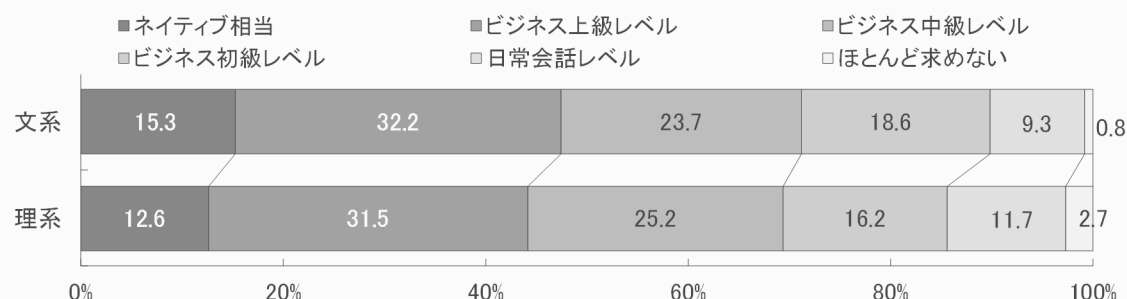
※日本人留学生の調査結果は「海外留学生の就職活動に関する調査結果」（2025 年 4 月発行）より

1. 現在の日本語力

まず、現在の日本語力について尋ねた。「ネイティブレベル」(25.8%)、「ビジネスレベル」(51.2%)を合わせて、ビジネスレベル以上の日本語力を有する者は 8 割近くに上る（計 77.0%）。J L P T（日本語能力試験）のレベルについては、最高レベルである「N 1」の保有者も 8 割近くに上る（77.4%）。ビジネスレベル以上を求める企業が大半だが（下記参考データ）、そのレベルに達している者は多い。



【参考】企業が外国人留学生に求める日本語コミュニケーションレベル(内定時)



※「外国人留学生／高度外国人材の採用に関する企業調査」（2024 年 12 月）

■JLPT（日本語能力試験）とは？

日本語を母国語としない人の日本語能力を測定し認定する試験

【N1】幅広い場面で使われる日本語を理解することができる

【N2】日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる

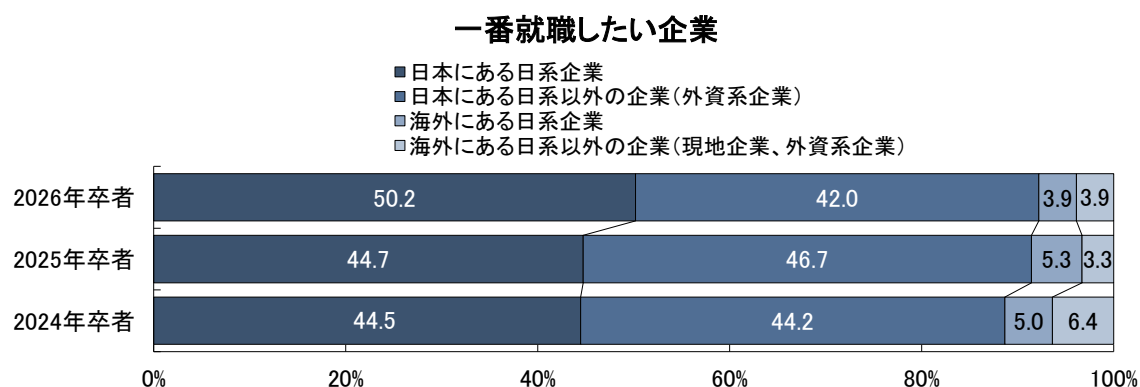
【N3】日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる

【N4】基本的な日本語を理解することができる

【N5】基本的な日本語をある程度理解することができる

2. 就職したい企業の種類

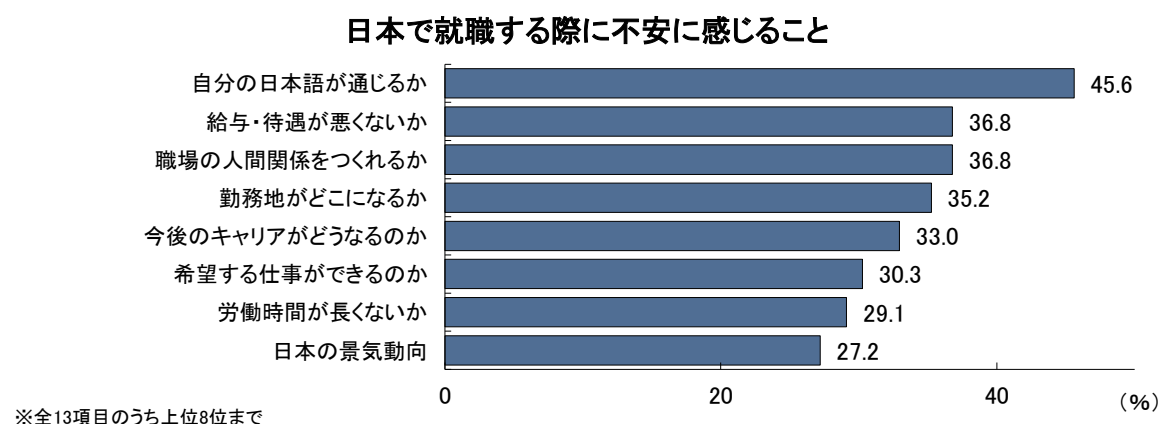
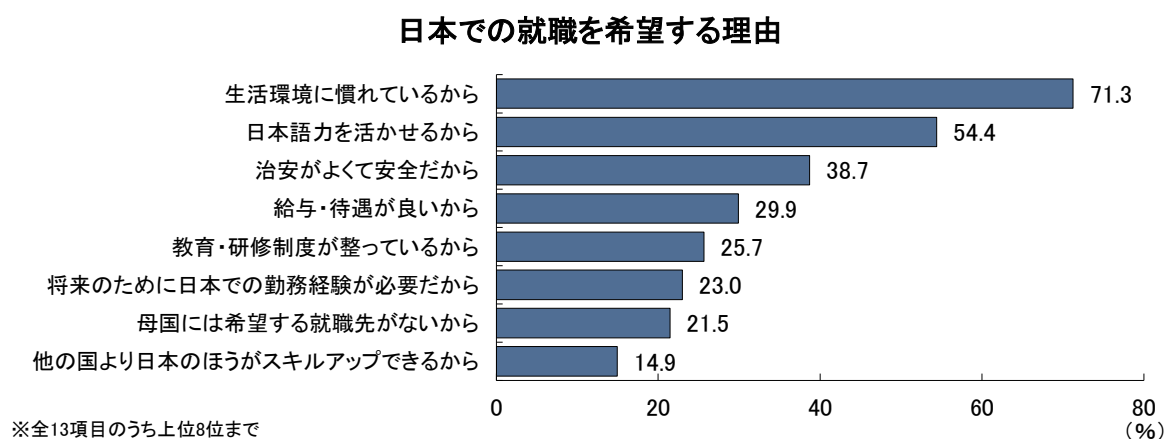
卒業後に就職したい企業を 4 つの選択肢で尋ねたところ、最も多いのは「日本にある日系企業」で半数を選んだ（50.2%）。次いで「日本にある日系以外の企業（外資系企業）」（42.0%）が続く。日本での就職を望む外国人留学生は合わせて 9 割を超える（計 92.2%）。



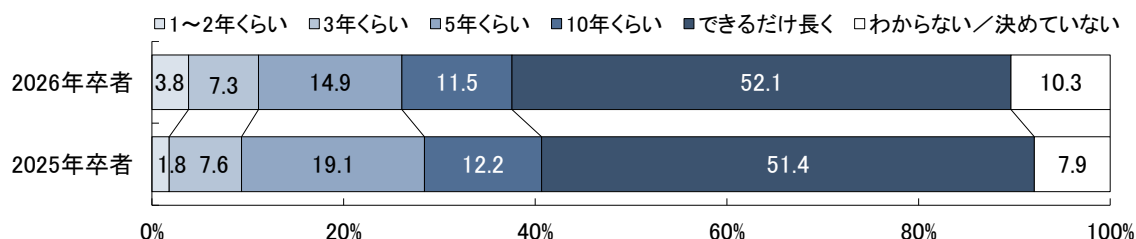
3. 日本での就職を希望する理由と不安に感じること

日本での就職を希望する理由として最も多いのは「生活環境に慣れているから」で、約 7 割（71.3%）。2 番目は「日本語力を活かせるから」（54.4%）。一方、不安に感じることで最も多いのは「自分の日本語が通じるか」で、4 割以上が選択（45.6%）。留学で培った日本語力を活かしたい反面、ビジネスの場で通用するか自信を持ってない者も少なくないようだ。

なお、日本で働きたい年数を尋ねると、「できるだけ長く」という回答が過半数を占めており（51.4%）、短期間での帰国を考えている者は比較的少数だった。（グラフは次ページ）



日本で働きたい年数

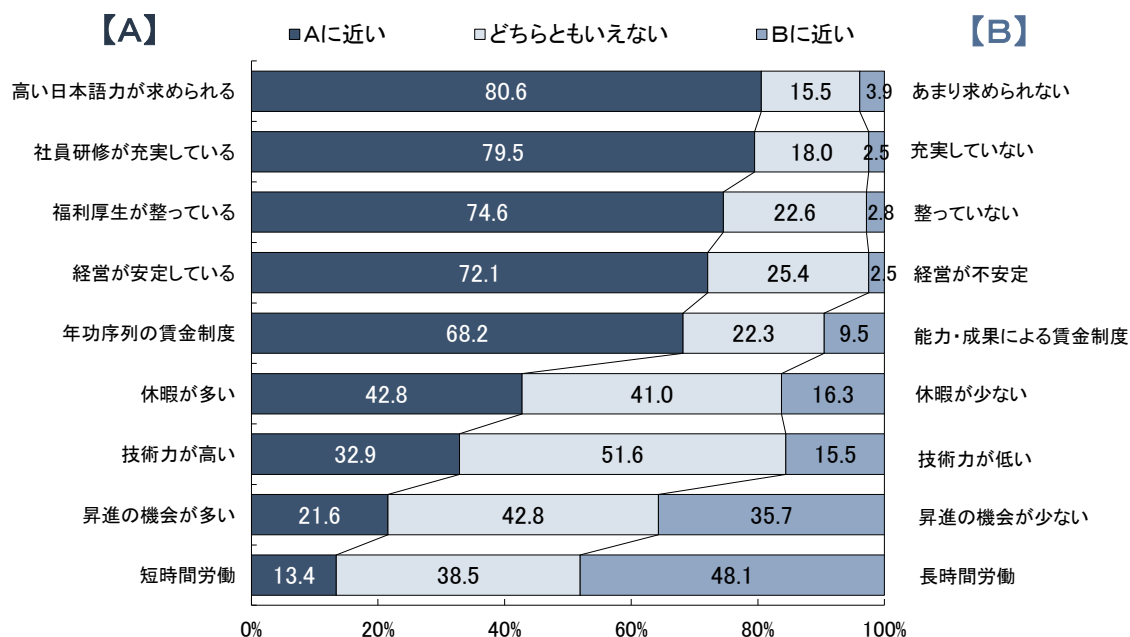


4. 日本企業に対するイメージ

最も多いのは「高い日本語力が求められる」で、約 8 割が選んでおり（80.6%）、日本企業への就職の障壁とを感じる留学生も少なくないことがうかがえる。

「社員研修が充実している」（79.5%）、「福利厚生が整っている」（74.6%）、「経営が安定している」（72.1%）までが 7 割台に上っており、留学生の多くが日本企業には安心して働ける環境があると捉えているようだ。反面、「長時間労働」（48.1%）、「昇進の機会が少ない」（35.7%）などのネガティブなイメージもみられる。

日本企業に対して抱いているイメージ

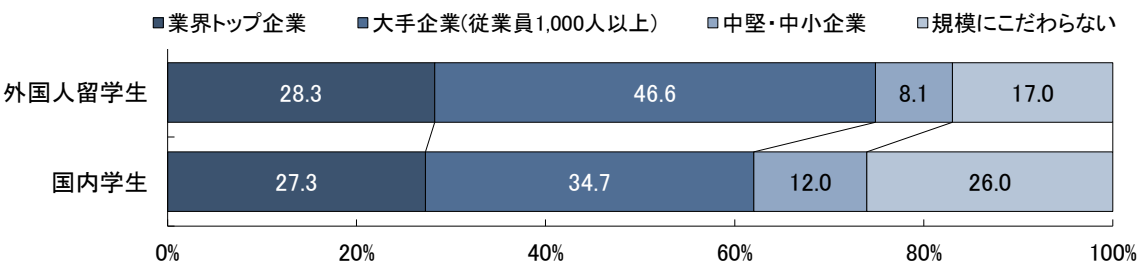


- 良いイメージはとても技術力が高いところです。UAE でも日本の技術はとても活かされていて、誇りに思っています。 <アラブ首長国連邦出身>
- チームワークがすごい。 <ベトナム出身>
- 日系企業の社員は時間の無駄遣いが多い。福利厚生が整っているが、その分基本給料が少ない。ボーナスが大きい。 <ロシア出身>
- 長期的にわたり人材を育成することを重視する。 <中国（本土）出身>
- 日本企業でのキャリアは安定して、ゆっくり、ゆっくり昇進していくイメージです。年功序列の制度があり、あまりフラットな組織ではないと感じます。 <ネパール出身>
- 日本企業では、業務プロセスが複雑で、無駄な時間が多くかかっているため、DX の推進がなかなか進まない傾向があります。 <中国（本土）出身>
- 女性の社員が少ないイメージがある。 <中国（本土）出身>

5. 就職したい企業の規模と志望業界、志望職種

日本企業に限らず、就職したい企業の規模を尋ねた。「業界トップ企業」(28.3%)と「大手企業」(46.6%)を合計すると7割を超える(計74.9%)。国内学生(日本人学生)の計62.0%と比べて10ポイント以上高く、外国人留学生の大手志向の強さが表れている。日本にある企業になじみが薄い分、まずは知名度の高い業界トップ企業群に目を向ける留学生も少なくないと見られる。

就職したい企業の規模



※国内学生は2025年3月調査

続いて、志望業界を40業界の中から5つまで選んでもらい、文理別に集計した。文系の1位は「総合商社」(34.9%)。4位に「専門商社」(25.4%)も入り、商社人気が高い。グローバルに活躍したい留学生が多いことがうかがえる。2位は「情報処理・ソフトウェア」(31.2%)。「情報・インターネットサービス」(20.6%)も5位に入り、IT業界を志望する学生も多い。

理系では、さらにIT業界の人气が高く、「情報処理・ソフトウェア」を志望する留学生が4割を超える(41.9%)。2位は「情報・インターネットサービス」と「電子・電機」(ともに22.1%)。以下「自動車・輸送機器」、「精密機器・輸送用機器」が続き、ITとメーカー上位を占めるのは国内学生と変わらないが、文系に人気の「総合商社」も比較的上位に入っているのが特徴的。

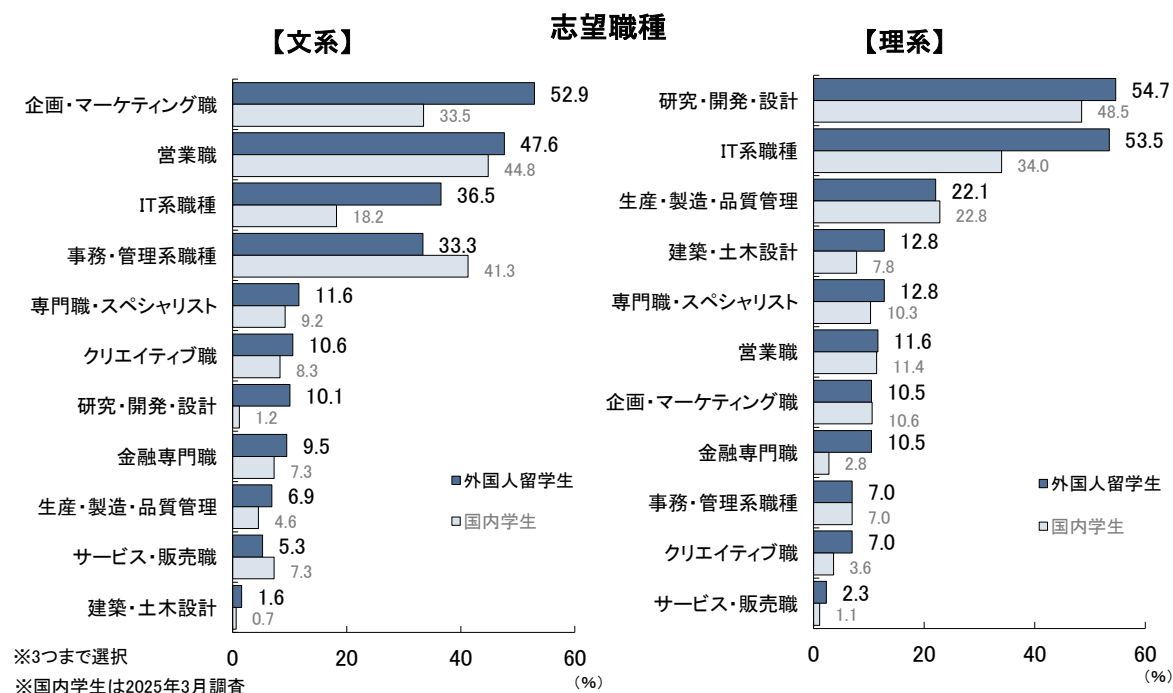
就職活動当初の志望業界（上位10業界）

(%)

文 系				理 系			
外国人留学生		国内学生		外国人留学生		国内学生	
1	総合商社 34.9	1	銀行 21.0	1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 41.9	1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 23.5
2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 31.2	2	情報・インターネットサービス 16.1	2	情報・インターネットサービス 22.1	2	素材・化学 22.2
3	調査・コンサルタント 29.1	3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 16.0	2	電子・電機 22.1	3	医薬品・医療関連・化粧品 21.4
4	専門商社 25.4	4	官公庁・団体 14.7	4	自動車・輸送用機器 19.8	4	電子・電機 19.0
5	情報・インターネットサービス 20.6	5	商社（総合） 11.1	5	精密機器・医療用機器 16.3	4	情報・インターネットサービス 18.2
6	自動車・輸送用機器 15.9	6	マスコミ 11.0	6	総合商社 15.1	6	水産・食品 15.3
7	電子・電機 12.7	7	建設・住宅・不動産 10.5	7	機械・プラントエンジニアリング 12.8	7	自動車・輸送用機器 13.5
8	銀行 11.6	8	調査・コンサルタント 10.2		医薬品・医療関連・化粧品	8	精密機器・医療用機器 10.8
9	マスコミ 11.1	9	保険 9.6		素材・化学	9	機械・プラントエンジニアリング 10.3
10	精密機器・医療用機器 10.6	10	運輸・倉庫 9.5		建設・住宅・不動産	10	建設・住宅・不動産 9.5

※40業界の中から5つまで選択
※国内学生は2025年3月調査

志望職種を全 11 項目の中から 3 つまで選んでもらい、文理別に国内学生と比較した。外国人留学生の文系で最も多いのは「企画・マーケティング職」で半数強が選択（52.9%）。次いで「営業職」（47.6%）。3 番目の「IT 系職種」は 3 割台後半に上り（36.5%）、国内学生（18.2%）を大きく上回る。理系を見ると、外国人留学生は「研究・開発・設計」（54.7%）、「IT 系職種」（53.5%）がそれぞれ 5 割を超え、上位 2 項目に人気が集中している。



6. 就職先企業を選ぶ際に重視する点と希望する働き方

外国人留学生が就職先を選ぶ際に重視する点は、「給与・待遇が良い」が最多（40.3%）。次いで「将来性がある」（37.5%）が続く。上位 2 項目は国内学生、日本人留学生とも共通。

3 番目以下は属性によって差が見られ、外国人留学生と日本人留学生は「有名企業である」「大企業である」の順位が比較的高く、大手志向がうかがえる。国内学生は「休日・休暇が多い」「福利厚生が充実している」といった働き方に関する項目が高め。

就職先企業を選ぶ際に重視する点（上位 10 項目）

外国人留学生		国内学生		日本人留学生	
順位	重視する点 (%)	順位	重視する点 (%)	順位	重視する点 (%)
1	給与・待遇が良い 40.3	1	給与・待遇が良い 47.7	1	給与・待遇が良い 47.9
2	将来性がある 37.5	2	将来性がある 40.0	2	将来性がある 37.9
3	職場の雰囲気が良い 33.2	3	休日・休暇が多い 31.3	3	大企業である 32.8
4	有名企業である 29.7	4	福利厚生が充実している 30.9	4	有名企業である 26.8
5	大企業である 26.9	5	大企業である 26.3	5	社会貢献度が高い 24.6
6	休日・休暇が多い 18.0	6	社会貢献度が高い 25.8	6	福利厚生が充実している 20.5
7	企業理念に共感できる 17.7	7	業績・財務状況が良い 25.3	7	日本以外の国で働ける 20.0
8	希望の勤務地で働ける 15.9	8	希望の勤務地で働ける 24.8	8	職場の雰囲気が良い 19.3
	福利厚生が充実している	9	職場の雰囲気が良い 23.5	9	仕事内容が魅力的 17.8
10	業績・財務状況が良い 15.2	10	有名企業である 21.1	10	高いスキルが身に付く 17.6

※全 30 項目の中から 5 つまで選択

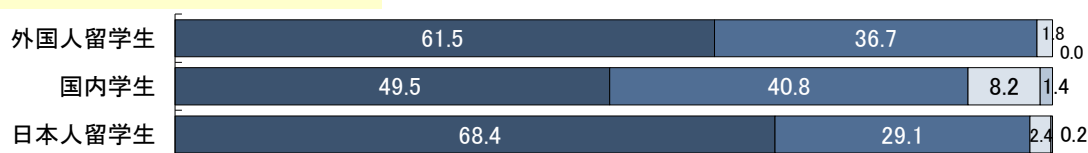
※国内学生は 2025 年 1 月調査

次に、就職先企業選びに下記の 3 つの項目がどの程度影響するかを尋ね、国内学生、日本人留学生と比較した。「(1) 仕事を通して成長できること」は、外国人留学生の 6 割強が「とても影響する」と回答（61.5%）。企業選びの重要な要素であることがわかる。「(2) 多様性のある職場環境であること」は、「とても影響する」が 44.2%に上るが、国内学生は低め（30.8%）。「(3) 柔軟な働き方ができること」は、「とても影響する」の割合が、外国人留学生で 45.9%に対し、国内学生は過半数に上り（52.3%）、国内学生の方が関心が高い。

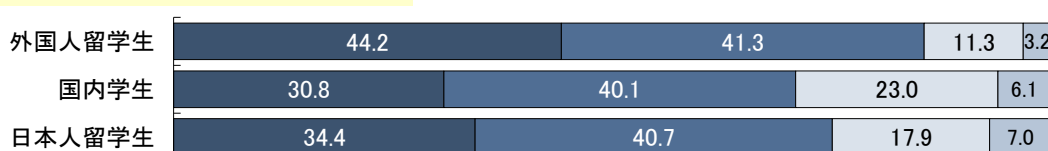
就職先企業選びへの影響度合い

■とても影響する ■ある程度影響する □あまり影響しない □まったく影響しない

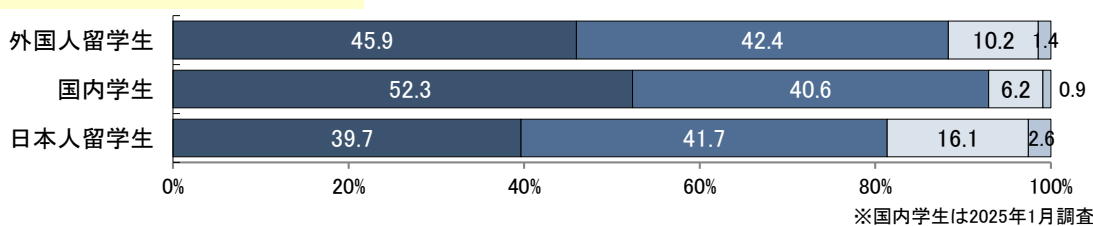
(1) 仕事を通して成長できること



(2) 多様性のある職場環境であること



(3) 柔軟な働き方ができること

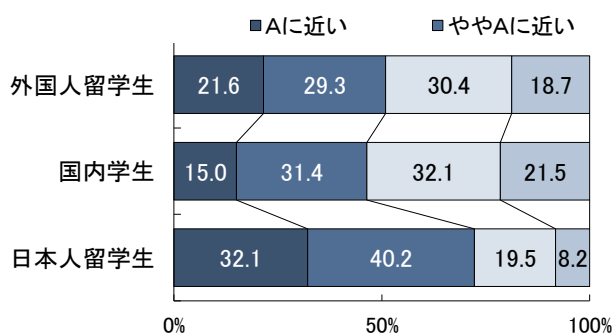


続いて、働き方の指標について対照的な項目を示し、希望に近い方を選んでもらった。

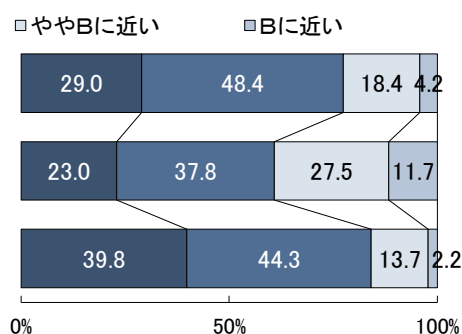
まず、「仕事が多少忙しくても早く出世したい」と考える外国人留学生は半数を超え（計 50.9%）、国内学生（計 46.4%）をやや上回る。「人よりも能力やセンスを評価されたい」は 8 割近くに上り（計 77.4%）、国内学生（計 60.8%）と比べて 15 ポイント以上高い。留学生の仕事への意欲の強さがうかがえる。

働き方についての考え

A. 仕事が多少忙しくても早く出世したい
B. 出世するより自分のペースで仕事をしたい



A. 人よりも能力やセンスを評価されたい
B. まわりから浮かないようにしたい



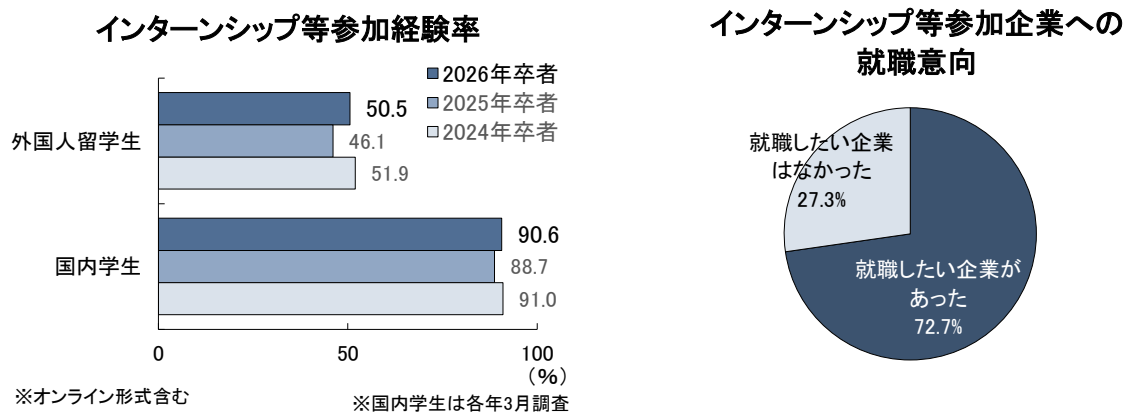
※国内学生は2025年2月調査

7. インターンシップ等のプログラム参加状況

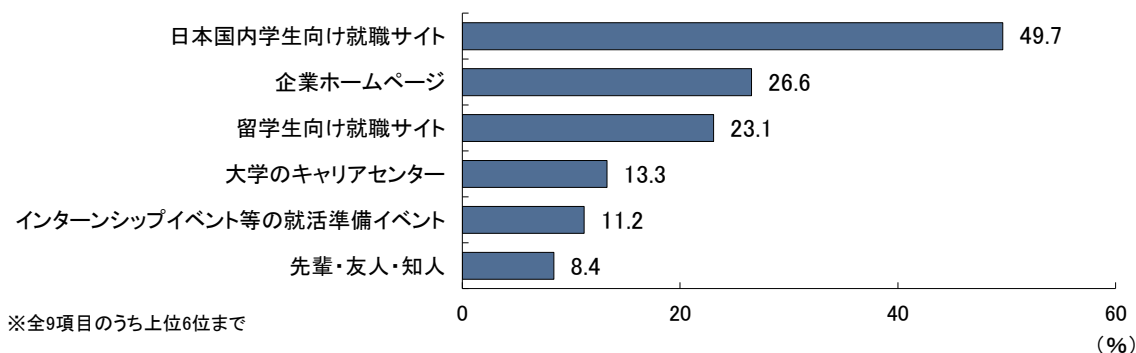
日本国内でのインターンシップやオープン・カンパニー等への参加経験を尋ねた。「参加した」と回答した外国人留学生は 50.5% で、国内学生の経験率（90.6%）とは大きな開きが見られる。

なお、参加した結果、就職したいと思う企業があったという外国人留学生は 7 割超（72.7%）。参加経験率は国内学生と比較すると低いものの、インターンシップ等への参加が、外国人留学生の就職先企業選びに与える影響は大きいことがわかる。

※1 日以内のプログラムも含む

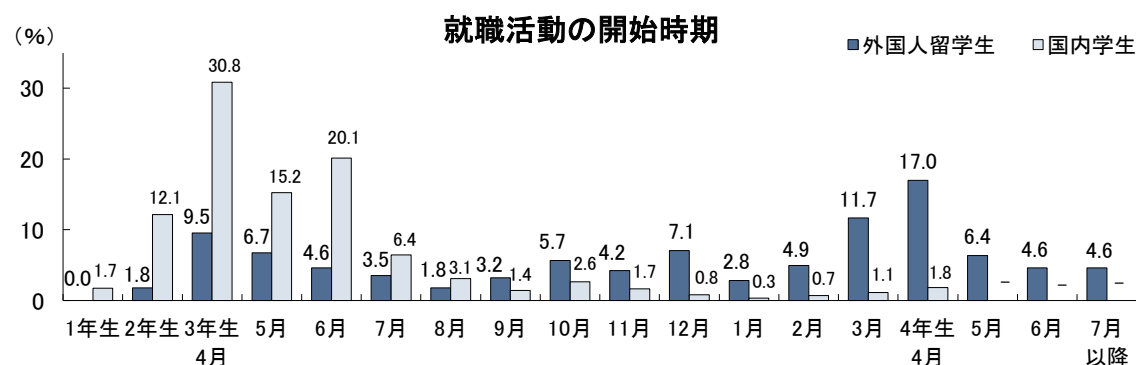


参加したプログラムを知ったきっかけ



8. 就職活動開始時期

外国人留学生が就職活動を開始した時期は「4 年生の 4 月」が最も多く（17.0%）、採用広報解禁（3 月）以降の合計が 44.3%。一方、国内学生は「3 年生の 4 月」（30.8%）が最も多く、解禁前の合計が 96.9% に上る。国内学生に比べ、外国人留学生の動き出しがかなり遅いことがわかる。



※「3年生」には「大学院1年生」を含む

※国内学生は2024年11月調査

9. 7 月時点の就職活動量と内定状況

調査時点のエントリー社数は平均 29.4 社で、前年同期調査（26.7 社）を 2.7 社上回る。会社説明会の参加社数、ES 提出社数、筆記・適性テストの社数もいずれも前年を上回る。ただし、面接試験の社数は、前年より微減（10.9 社→10.6 社）。留学生にとって、ES や筆記試験のハードルが高いことがうかがえる。

すべての項目で国内学生の平均社数を上回っており、就職活動の開始時期は遅いものの、精力的に活動している様子が見て取れる。

7 月時点の就職活動の社数

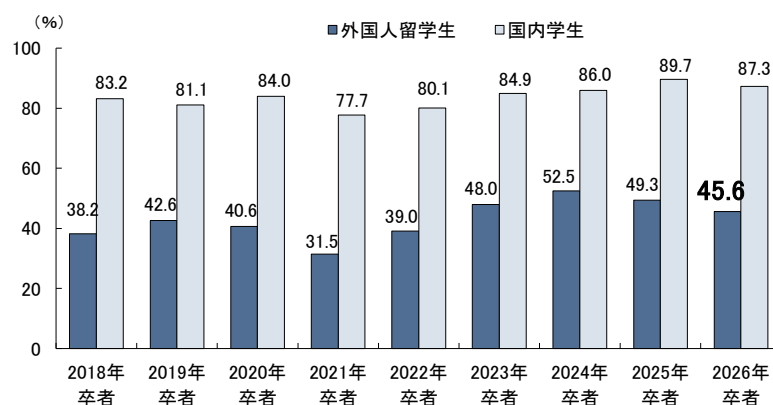
	全体	(前年)	文系	理系	(国内学生)
エントリー社数	29.4	26.7	33.1	21.0	25.3
会社説明会の参加社数	22.3	19.3	25.5	15.1	16.6
エントリーシート提出社数	25.6	21.9	28.8	18.4	12.0
筆記・適性テストの社数	18.6	15.8	20.7	13.8	9.3
面接試験の社数（WEB面接含む）	10.6	10.9	11.3	9.0	7.7

7 月時点の内定率は 45.6%。2 年前の 2024 年卒者は、現行の就活ルールとなった 2017 年卒者以降で最も高い内定率を示したが（52.5%）、その後 2 年連続で低下した。今年は国内学生の内定率も前年よりやや低下したものの、9 割近くに上っているのと比べると（87.3%）、依然として大きな開きが見られる。なお、インターンシップ等参加有無で差が見られ、参加経験者の内定率は 54.5%に上るのに対し、参加経験がない留学生は 3 割台にとどまる。

内定取得者も含め、就職活動を継続している外国人留学生は 7 割弱（計 69.3%）。同時期の国内学生（計 25.2%）の 2 倍以上に上る。就職活動の動き出し時期の違いなどにより、進捗に顕著な差が生じている。

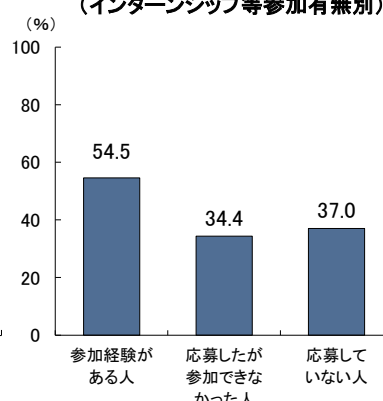
※「内定」には、内々定を含む

7 月時点の内定率（国内学生との比較）

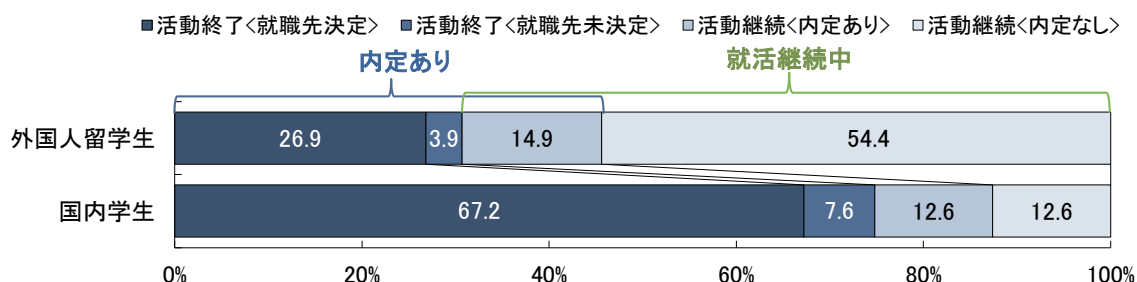


※国内学生は各年 7 月調査

7 月時点の内定率
（インターンシップ等参加有無別）



7 月時点の就職活動状況



※国内学生は2025年7月調査

10. 企業に評価してもらいたいこと

企業に評価してもらいたいことを尋ね、国内学生、日本人留学生と比較した。いずれも 1 位は「コミュニケーション能力」で、それぞれ 5 割以上が選んだ。外国人留学生の上位には「語学力」「異文化対応力」などが入り、留学経験を通じて向上させた能力を企業に評価してもらいたいと考える留学生が多いことが読み取れる。

企業に評価してもらいたいこと（上位 10 項目）

(%)

外国人留学生			国内学生			日本人留学生		
1	コミュニケーション能力	52.7	1	コミュニケーション能力	53.3	1	コミュニケーション能力	52.5
2	語学力	43.8	2	協調性	43.5	2	協調性	35.7
3	熱意	37.8	3	熱意	27.1	3	異文化対応力	33.8
4	異文化対応力	35.7	4	信頼性	24.7	4	語学力	32.0
5	基礎学力	29.3	5	社交性	24.2	5	社交性	23.2
6	協調性	25.1	6	明るさ	23.5	6	信頼性	23.1
7	情報収集力	22.3	7	基礎学力	23.2	7	基礎学力	22.4
8	専門知識	20.5	8	身だしなみ・マナー	21.8	8	リーダーシップ	21.9
9	明るさ	16.3	9	一般常識	20.7	9	社会的関心	17.9
10	社交性	14.8	10	リーダーシップ	15.4	10	熱意	17.1

※全25項目の中から3つまで選択

※国内学生は2025年3月調査

○母国語ではない日本語でも専門的な内容について話せること。

<ロシア出身>

○責任感、コツコツ努力する姿勢。

<中国（本土）出身>

○成長意欲があって、会社に対する忠誠心が高いこと。

<マレーシア出身>

○大学の成績を自負しているので、もし成績をアピールする機会があれば嬉しいです。

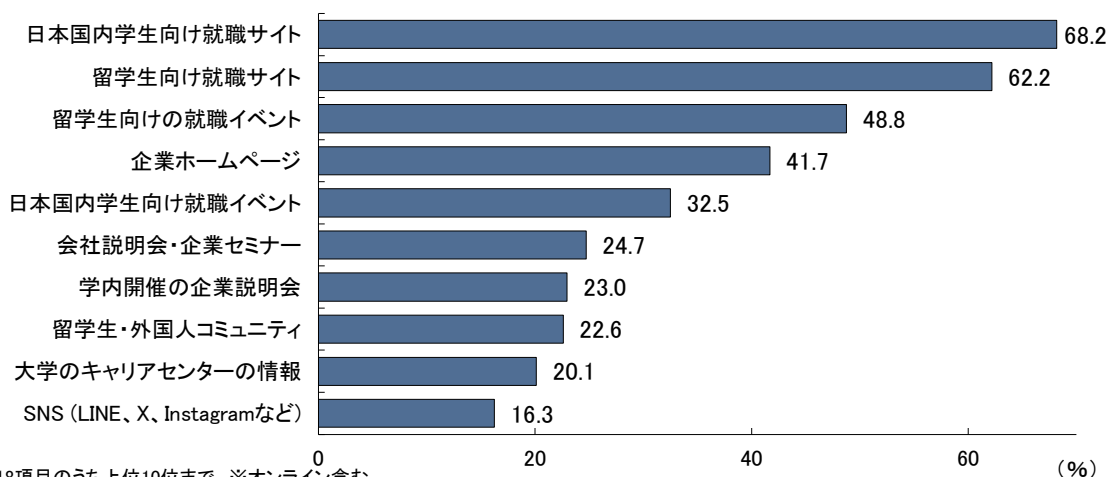
<中国（本土）出身>

11. 就職活動の情報源

外国人留学生が就職活動で活用している情報源について尋ねた。最も多いのは「日本国内学生向け就職サイト」（68.2%）。これに「留学生向け就職サイト」（62.2%）が続き、多くの外国人留学生が就職サイトを広く活用していることがわかる。

「留学生向け就職イベント」（48.8%）、「企業ホームページ」（41.7%）、「日本国内学生向け就職イベント」（32.5%）が続き、様々な手段を用いて情報収集を行っている様子がうかがえる。

就職活動の情報源



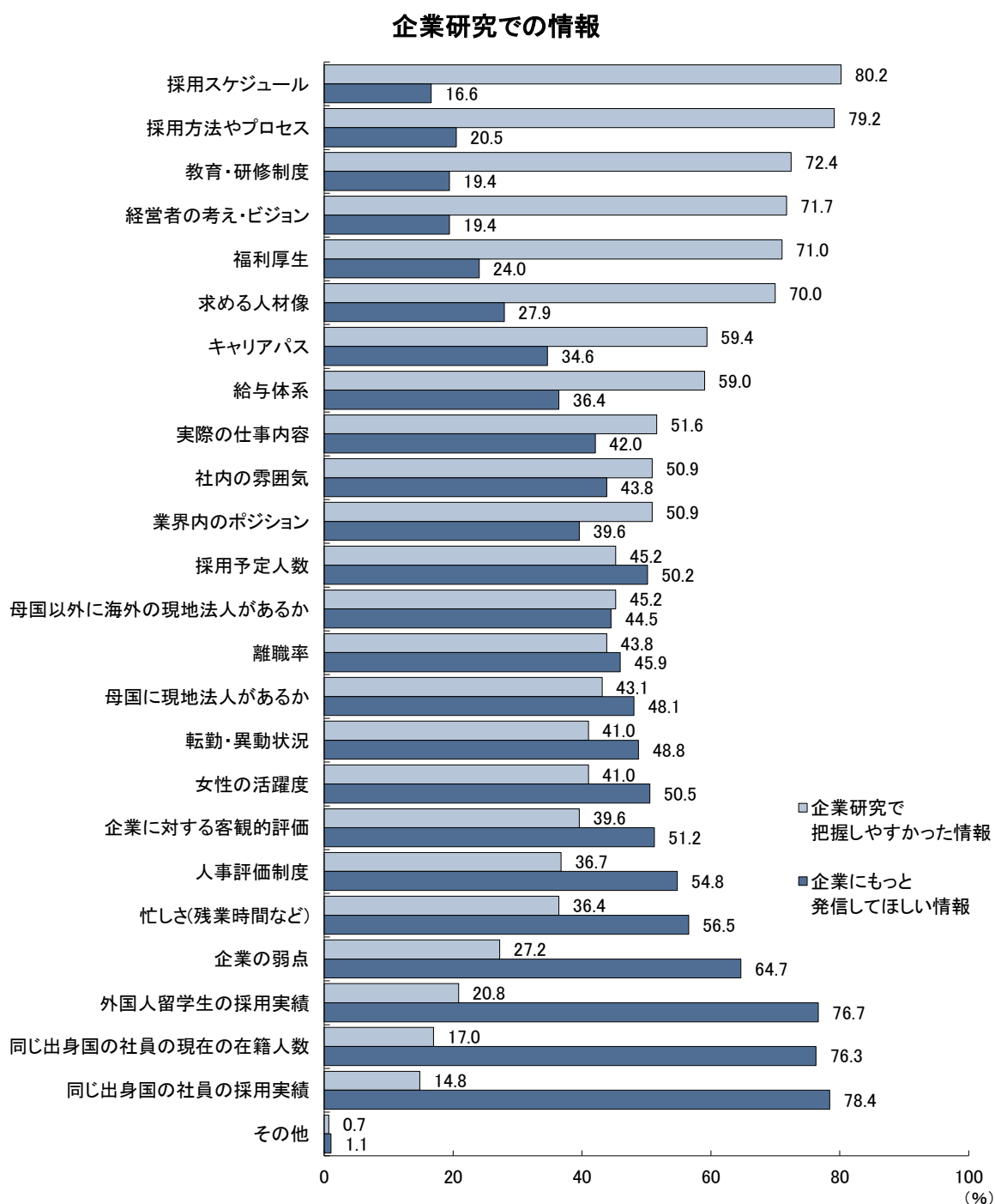
※全18項目のうち上位10位まで ※オンライン含む

12. 企業研究で把握しやすかった情報／もっと発信してほしい情報

「企業研究で把握しやすかった情報」と「企業にもっと発信してほしい情報」を、項目をそろえて尋ね、比較した。

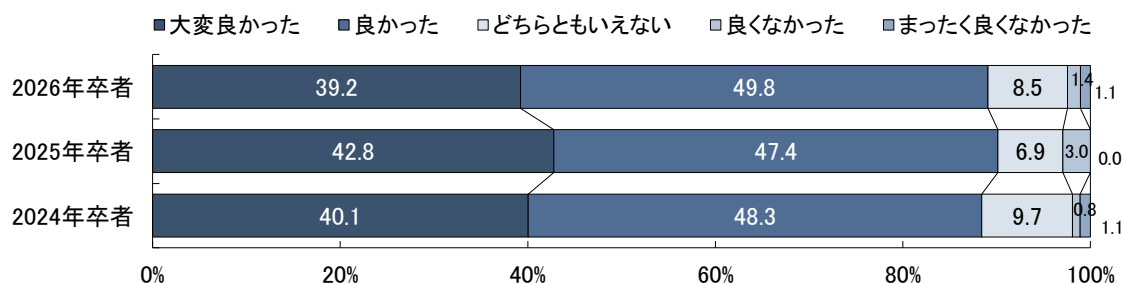
まず、把握しやすかった情報は、「採用スケジュール」（80.2%）が最も多く、僅差で「採用方法やプロセス」（79.2%）と基礎的な採用情報が続く。

対して、企業にもっと発信してほしい情報は、「同じ出身国の社員の採用実績」（78.4%）、「外国人留学生の採用実績」（76.7%）、「同じ出身国の社員の現在の在籍者数」（76.3%）がいずれも 7 割台後半と高い。把握しやすかった情報と大きな差が見られ、外国人採用情報の積極的な開示を企業に求めていることがわかる。



日本への留学全般についての感想を尋ねた。「大変良かった」（39.2%）と「良かった」（49.8%）を合わせると 9 割に上り（計 89.0%）、満足度は高い。語学力の向上だけでなく、異文化での生活を経験したことで視野が広がったことなどが多く挙げられた。

留学をした感想



○日本に来て、自分の興味を持った研究もできるし、日本人だけでなく、海外の友達も大勢できた。

＜中国（本土）出身＞

○さまざまな経験ができたことと、大学で自分のキャリアと人生に非常に良い機会が多かったため、大変良かったと思っています。

＜ブラジル出身＞

○語学力や技術力を高められた。

＜アラブ首長国連邦出身＞

○異なる社会を目にし、この国の文化や生活が好きになり、大人として自立して生活する力が大きく向上しました。

＜中国（本土）出身＞

14. 外国人留学生就活川柳

日本での就職活動で感じたことを、川柳に詠んでもらった。全 127 作品が寄せられた中から、一例を紹介したい。日本特有の就活スタイルに戸惑いながらも奮闘する様子がうかがえる。

